

2023 年度 E.FORUM 「全国スクールリーダー育成研修」

教育学研究科教育実践コラボレーション・センター E.FORUM では、2023 年 8 月 18 日（金）・19 日（土）に、吉田キャンパス文学部新館ならびに法経済学部本館他にて「全国スクールリーダー育成研修」を開催しました。2 日間に渡る対面での研修は、4 年ぶりの開催でしたが、北は北海道から南は熊本県まで、総勢 143 名（1 日目：127 名、2 日目：78 名）の教職員や教育委員会関係者等の方々にご参加くださり、とても活気のある会となりました。

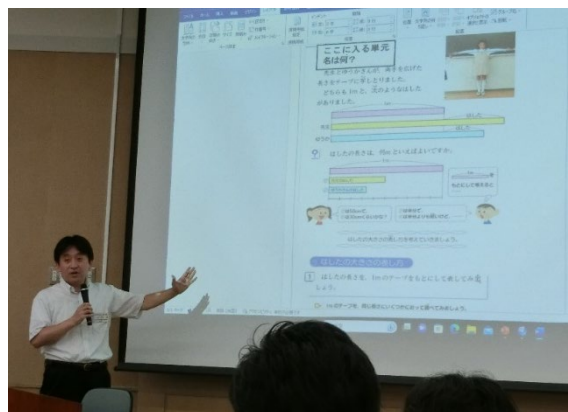


1 日目は、オープニングとして、研修運営担当の西岡加名恵教授から本研修の概要説明を行い、参加者同士で簡単な自己紹介をするところからスタートしました。その後、午後の前半にかけて、各分科会に分かれ、講義を行いました。各分科会のテーマは、次の通りです。分科会 A 「『資質・能力』を育成するパフォーマンス評価——教科教育を中心に」（西岡加名恵教授）、分科会 B

「授業づくりの深め方」（石井英真准教授）、分科会 C 「批判的思考の能力と態度を育てる——よりよい未来を築くために」（楠見孝教授）、分科会 D 「カウンセラーからみた不登校」（梅本高太郎講師）。午後の後半は、齊藤智研究科長による挨拶の後、明和政子教授による講演「ヒトの脳と心（人間らしさ）の創発・発達」が行われました。



分科会 A（西岡加名恵教授）の様子



分科会 B（石井英真准教授）の様子



分科会 C（楠見孝教授）の様子



分科会 D（梅村高太郎講師）の様子



挨拶をする齊藤智研究科長



講演会（明和政子教授）の様子

2 日目も、オープニングの後、分科会 E「個別化・個性化教育の考え方——オランダのイエナプラン教育を手がかりに」（奥村好美准教授）と分科会 F「教員の育成策を考える——外国の事例との比較を手がかりに」（服部憲児教授）に分かれて講義を行いました。午後は、事前に参加者からお寄せいただいた質問にお答えする「質疑応答セッション」（西岡加名恵教授・石井英真准教授・奥村好美准教授）を行いました。その後、参加者それぞれの興味関心に沿って、8 グループに分かれ、グループごとに実践交流会を行いました。グループでは、参加者それぞれが持ち寄った実践資料をもとに参加者同士で意見交換を行い、交流を深めました。



分科会 E（奥村好美准教授）の様子



分科会 F（服部憲児教授）の様子



質疑応答セッションの様子



実践交流会の様子

参加者からは、「日頃触れることのない大学の先端研究に関する講義を聞くことができた」、「教育実践に非常に熱心に取り組まれている先生方がたくさんおられることを実感し、自分も研究や実践をより頑張りたいという励みになった」といった感想が寄せられ、大変好評のうちに終えることができました。下記に、各登壇者に寄せられた感想の一部をご紹介します。

【分科会 A：西岡教授】

- ・著書を拝読したことはありましたが、実際のお話ぶりに引き込まれ、大変勉強になりました。説明が明快で、事例も多くとても参考になりました。エッセンスをできるだけ拾い集め、本校教員に共有しようと思います。(公立高等学校教諭)
- ・「本質的な問い」と「永続的理解」、パフォーマンス課題と評価について、教育実践の現場に寄り添う内容で、授業改善に向けて大変参考になりました。本を読むだけでなく、実際に研修で西岡先生のお話を伺えて良かったです。(大学教員)

【分科会 B：石井准教授】

- ・児童生徒・教材に真に向き合うことの重要性を改めて意識する機会になりました。頭ではわかっていても、日常では How to に引っ張られてしまうので、たまに立ち止まって考える機会を意図的に設けていきたいです。(特別支援学校教諭)
- ・難しい専門的な話に、身近な例があり、具体化されわかりやすかった。笑いが多々あり、没入した時間を過ごせました。また、思いを言語化することの必要性を感じました。(国立高等学校教諭)

【分科会 C：楠見教授】

- ・批判的思考の能力と態度の育成という視点で日々の実践を見直すことが、大きな改善につながると感じました。先生のお話を聴きながら、自分の実践のおいしい部分、足りない部分を考えながら改善点を見つけました。私は英語科なので、書く活動があるのですが、そこに仲間同士で読み合ってサポートしていくということをやっていたので実践につなげていきたいです。(国立中学校教諭)
- ・楠見先生の温かな口調で大変わかりやすく、学ぶことができました。批判的思考力について、以前研究したことがありましたが、今回のご講義で一層興味が湧きました。(教育委員会職員)

【分科会 D：梅村講師】

- ・不登校が増えているのではという漠然とした現場の不安に対して、明確に答えてくださいました。本人がちゃんと不登校になれる環境を整えるというお話をはじめ、日々の取り組みを見つめ直す新たな視点を得たように思います。(公立小学校教諭)
- ・高校の担任をしており、不登校の生徒・保護者へのアプローチは毎回あれこれ考えるところがあります。高校ですので進級にも関わり、その中で葛藤することもあります。まずは保護者の方の不安に寄り添うという視点から、関わり方を再考したいという、(個人的な)課題意識を持ちました。(高等学校教諭)

【講演：明和教授】

・身体感覚の大切さ、脳の感受性期など、共感しながら聞き浸りました。難しい内容を本当にわかりやすくお話くださったように思います。こども家庭審議会で本当に大事にしてほしい内容だと思います。(小学校教諭)

・明和先生の脳科学者としての知見に基づく最新のご講義は、目から鱗の内容でした。ヒトとして生きていくために必要なこと、子供の脳についても大変示唆に富む内容で感銘を受けました。子育てをやり直せるなら・・・と後悔する気持ちもありますが(笑)、これから出会う子供達のために、今回の学びを活かせたらと思います。(教育委員会職員)

【分科会 E：奥村准教授】

・恥ずかしながら「イエナプラン」については今回始めて知りました。義務制学校の現場の者は、文科省など行政周辺が発信するものばかりを見がちですが、もっと個々の研究者の方々のちゃんとした学術的なお話を聞き、知見を広げたいと思いました。大変良い刺激を受けることができました。(公立中学校教諭)

・自身の今後の課題においても記したのですが、「個別化・個性化教育」に関しては知識に乏しいので、非常に新鮮な学びの場でした。中でも、理念や目標を見失った中での個別化・個性化教育であってはならないといったまとめのお話は、改めて「理念・目標設定とそこに立ち返ること」の重要性を確認できたように思います。(私立高等学校教諭)

【分科会 F：服部教授】

・フランスの教員養成制度やその改革について聞くことが、とても興味深く、また日本の教員養成制度を見つめる機会となることを実感しました。「社会的に高く評価されている」という調査結果の日仏の違いなど、もっともっとお聞きしたかった内容がたくさんあります。(小学校教諭)

・研究力と実践力のバランスの話がとても印象に残りました。「自分たちで学校をつくる」という意識を私たち教員は今まで以上にもつ必要があると思っています。そのためにも、自分たちの学校に、地域の学校に、日本の学校に何が足りなくて、何が必要で、どのようにしていくのかを論理的に分析、実践していく力は必要だと思います。実践的指導力を高めるための基礎の研究力という言葉を意識して、若い先生方とかかわっていきたいです。(国立中学校教諭)

【質疑応答セッション&実践交流会】

・今回、石井先生と奥村先生の講座を受講できなかったのですが、ここで少しでもお話を聞くことができてよかったです。石井先生がおっしゃっていた問いと答えの間がダイナミックな学習活動について、もっと深く話が聞きたいと思いました。(公立小学校教諭)

・最先端の実践研究を行いつつ、現場の教員として経験を積まれた先生方の取り組みを拝見することができ、これからの教員としての具体的な指針を持つことができました。また、アドバイスを頂く中で、逆向き設計論における永続的理解と本質的な捉え方、カリキュラムにおけるパフォーマンス課題の位置付けが自分の中で何となく腑に落ちて、外形が掴めてきたように感じました。(公立中学校教諭)

E.FORUM では、引き続き実践に役立つ知見を得られる、楽しくて元気の出る研修を提供していきたいと考えております。今後ともご支援のほど、よろしくお願いいたします。

以上